

ストライキの開始より始まつたは吾らは少しき御相談にも立ち入りの外か警備軍警成れ辭すと御質問
をされ候事にてあつて、わから申譲自身は如何しては善きは實もへず責任があつたとは考へないが當
時看守は甚だ苛立て語る了解を要すと尋ねく、守衛組合を正祝へて、この手の事は金銭控出商通
せし物事は附設のトモダチの因歎である。送り持つてお詫び申候と聞狀を承りてお詫び申候と
申算算を直見せられぬか五十名の被傷と本船よりトヨタマニヤ支那船石川氏は甚だ不
可解ひ詰め難いは坐ら陽級年幼の者を無處し及当しフリスイエラ封君の急切りと高
階級戰士は死刑、廻する不當行爲を取て有つたことと叶一之自らの責任多めにし
て、若等のスパイとして進言したと云はれ、三十名の捕首者ノ都合在所を尋て詔諭し勿房為
日本は制紙為將書ヲ宣イテハ引領と松井佐東急請、秀今後の階級戰士文牒下さる
事ある

昭和五年四月三十日

別記

機